

(仮称)新中間処理施設整備有識者会議の設置

1. 趣旨及び目的

くりりんセンターは、平成8年10月に供用を開始し、平成23年度から施設長寿命化のため基幹的整備を行い、現在、平成37年度までの長期包括的運転維持管理業務委託により、運転管理を行っています。

平成28年度は今後の一般廃棄物中間処理施設のあり方を検討し、平成38年以降は新施設でゴミ処理を行う方針を決定しました。

また、平成29年度は構成市町村による新中間処理施設整備検討会議を設置し検討してきました。

平成30年度から新施設整備の基本構想策定に向けて有識者から助言及び提言等をいただくため、(仮称)新中間処理施設整備有識者会議を設置することとします。

2. 構成委員

敬称略

氏名	所属	役職	備考
辻修	国立大学法人 帯広畜産大学	教授	帯広市緑化審議会委員長
東條安匡	国立大学法人 北海道大学	准教授	稚内市一般廃棄物最終処分場整備・運営事業者選定審査委員会委員 他
吉田英樹	国立大学法人 室蘭工業大学	准教授	旭川市最終処分場整備検討委員会・廃棄物処分場環境対策協議会委員 函館市廃棄物処理施設整備技術検討委員会委員 他
濱田雅巳	公益社団法人 全国都市清掃会議	技術部長	川口市戸塚環境センター施設整備基本構想・基本計画審議会会長 出雲市次期可燃ゴミ処理施設検討専門委員会・事業者選定委員会委員 他

3. 検討を想定している項目

項目	検討内容
処理方式について	昨年度の検討委員会において、比較検討した焼却施設等について、選定に向けた基準等を検討する。
エネルギー回収について	ゴミの種類、ゴミ発生量、計画ゴミ処理量、計画ゴミ質等に基づき、施設で発生する熱量、利用方策等を検討する。
建設候補地の選定について	昨年度の検討会議において絞り込んだ2地区から建設候補地を選定するため、評価基準等を検討する。
環境保全目標について	環境保全に関する法基準等(大気、騒音、振動、悪臭、水質等)及び道内他都市の事例を参考に、自主基準値の設定の必要性について検討する。
事業手法について	各事業手法の特徴、事業費等を踏まえて、新施設における事業手法について検討する。
その他	施設配置計画などについて検討する。